平成２７年度　キャリア教育推進地域事業推進校

研究テーマ

学校名：須崎市立南小中学校

９年間を見通したキャリア教育の推進（小中が連携して、児童生徒の生きる力を育てる。）

１．取組内容

平成２７年度須崎市立南小中学校キャリア教育全体計画

児童・生徒

・みなみ保育園、南小学校、南中学校と学級の児童生徒は同じ級友の中で生活している。

・同一敷地内の校舎で学校生活を送っており、始業式・終業式・運動会や文化祭など大きな学校行事は合同で行っており、明るく素直である。

学校教育目標

明日を拓く南っ子

～明るく楽しく活気のある学校をみんなで創る～

目指す児童生徒像

・ともに学び合う子ども（自主自立）

・互いに認め合う子ども（人権尊重）

・粘り強く取り組める子ども（継続は力なり）

目指す教師像

・認め合う教師集団（協力）・支え合う教師集団（信頼）

・情熱と熱意のある教師集団（実践）

目指す学校像

・明るく、楽しく、活気のある学校

地域

地域の学校として、学校に対して協力をよくしていただける。

家庭

PTA 行事など、積極的に学校をサポートできており、地域の学校として学校を信頼している。

本年度の重点目標

知・徳・体のバランスのとれた小中一貫教育の推進

キャリア教育の全体目標

将来の夢や希望を持って努力を続け、意欲を持って学び続ける児童生徒

育成すべき能力や態度（基礎的・汎用的能力）

人間関係形成・社会形成能力
（かかわる力）

・相手の話を丁寧に聞く

・自分の言葉で相手に伝える。

・規則や約束を守る

・自分の役割が分かる

自己理解・自己管理能力
（みつめる力）

・自分に自信を持つ

・自分のよいところに気付く

・やりたいことを見つける

・自分をコントロールする

課題対応能力
（やりぬく力）

・課題を見つける

・計画を立てて見直す

・解決方法を工夫する

・あきらめないで努力を続ける

キャリアプランイング能力
（かなえる力）

・働くことの大切さが分かる

・色々な情報を正しく知る

・目標に向かって希望を持つ

・自ら主体的に判断し行動する

重　点　目　標

学　力　向　上

・課題や問題に対してよりよい解決策を考える

・家庭学習の習慣を身につける

・目的意識を持ち学習や活動に取り組む

基本的生活習慣の確立

・規則や約束を守る

・返事や挨拶や掃除をする

・読書の習慣を身につける

社　会　性　の　育　成

・相手を思いやり、協力しあって学習や活動に取り組む

・自分の良さが分かり、伸ばすことができる

・夢や希望、憧れる自己のイメージを獲得する

各　教　科

・学ぶ意欲を持って主体的に学習する

・学習規律や基本的な学び方を身につける

道　徳

・思いやりや感謝のこころを身につける

・自らを律しつつ、自己向上の精神を持つ

特　別　活　動

・集団の一員としてよりよい生活を行う

・協調性やよりよい人間関係を築こうとする

総合的な学習の時間

・人や社会、自然との関わりを通して自分の考えを深める

・自分の将来の生き方について考える

家庭・地域との連携

各種関連機関との連携

計画・実践・評価・改善

平成２７年度　南小中学校研究構想図

学校教育目標

明日を拓く南っ子

～明るく 楽しく 活気のある学校をみんなで創る～

小中共通研究主題

小中一貫教育の推進

～ 知・徳・体の向上を目指して ～

～ 生きる力を育む防災教育・キャリア教育 ～

目指す子ども像

ともに学び合うこども
互いに認め合う子ども
粘り強く取り組める子ども

仲間づくり

◇よりよい人間関係の構築
◇生徒指導の３機能を生かした授業づくりの推進（南小中学校版）
◇防災教育・キャリア教育の視点を入れた授業の研究

授業づくり

◇学力の向上
◇関わり合って学ぶ力を育てる
◇言葉の力を育てる
◇教科による防災教育・キャリア教育の推進
◇研究授業の推進

体力づくり

◇体力の向上による防災教育・キャリア教育の推進
◇基本的生活習慣の確立
◇自己管理できる児童・生徒の育成

保護者・地域との連携

保育との連携

本校は、平成１７年度から小中一貫教育推進校となり、施設一体型・小規模校の特性を生かして研究を進めてきている。小中一貫教育の研究組織や教職員の意識の改善を図り、本校の進むべき小中一貫教育の方向性を軸としながら、年度ごとにおける成果の蓄積と課題を明らかにし取り組みを行ってきた。平成２３年度より研究主題を「小中教育の推進～知・徳・体の向上を目指して～」と設定した。本校の児童生徒の実態から「言語力の育成」「学習意欲の向上」「自尊感情の高い児童生徒の育成」が課題として見えてきた。そのために「授業づくり部会」「体力づくり部会」「仲間づくり部会」により、義務教育９ヵ年で小中一貫教育を推進することとした。小中合同で取り組みを進め９年間で子どもたちを育てていく視点でPDCAサイクルを確立し、研修計画を立て計画的に進めてきている。

また、本校の校舎は海抜約３．７ｍで海岸のすぐ近くにあり想定される津波の高さは１０～２０ｍ、津波到達時間約１０分とされる場所にある。そのため災害時には自分で判断し、最善の行動がとれること、そして地域の先人に学び、この地に誇りを持つ児童生徒の育成は重要である。平成２５年には、「高知県実践的防災教育推進事業」に取り組み、昨年度は「防災キャンプ推進事業」の指定を受け、全教育活動を通して「防災教育」に取り組んできた。そして、防災教育と同様、教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動など学校教育活動と関連させながらキャリア教育の推進を行っていくこととした。地域や児童生徒の実態や課題を踏まえ、「知・徳・体の向上」と「生きる力を育む防災教育・キャリア教育」を２本柱として「小中一貫教育の推進」を進めている。

（1）授業づくり部会

ア．南小中学校の学習スタンダードの作成

全国学力学習調査の結果や、キャリア教育の視点をもとに、課題解決と言語活動の充実を中心に据えた南小中学校の学習スタンダードを作成し、全校で取り組んでいくこととした。

各教室にシラバスを掲示、小学校では各児童に「学びあいのポイント」を配布し、いつでも確認できるよう机の横に提げている。さらに、授業ノートの充実を図るため、「ノートの使い方」を指示し、優れたノートを掲示して、皆が見て参考にできるようにしている。

イ．校内研の取り組み

キャリア教育の研究テーマにもとづき、各教科にキャリア教育の視点とともに、南小中の授業スタンダードを取り入れた校内研の授業研究を小中学校で実施している。

＊下は本年度の研究授業計画である。

	研究授業日	事前研	授 業 者	学年・教科等	講師など
小	6月15日(月)	5月27日（水）	成岡 朗子	6年　算数 （キャリア教育）	中部教育事務所 月原 賢司 指導主事
中	7月　8日(水)	6月24日（水）	中平 幹明	3年　数学 （キャリア教育）	中部教育事務所 岩城 多加仁 指導主事
中	10月7日(水)	9月30日（水）	中井 和重	2年　英語 （キャリア教育）	高知大学 （柳林先生・島田先生）
中	10月15日（木）	10月　8日(木)	藤田 望美	1年　道徳 （キャリア教育）	高知大学 （柳林先生・島田先生）
合同 (授業)	10月19日（月）	10月7日（水）	西村 壽栄	3・4年　道徳 （キャリア教育）	中部教育事務所 青木 淑江 指導主事
合同 (仲間)	11月25日（水）	11月 6日(金)	氏原 亜佑	5年　外国語 （キャリア教育）	中部教育事務所 矢野 芳恵 指導主事
中	12月17日（木）	12月 9日(木)	中越美智子	2年　国語 （キャリア教育）	高知大学 （柳林先生・島田先生）
小	1月20日（水）	1月 8日(金)	松浦　毅	2年　道徳 （キャリア教育）	中部教育事務所 青木 淑江 指導主事

＊次は授業後の研究協議のまとめである。

研究授業のまとめ

【小学６年算数　分数「分数のわり算を考えよう」】　　南小　成岡朗子

研究授業日：平成27年6月15日(月)　5校時　6学年教室

事後検討会：平成27年6月15日(月)　15:00～16:40　コンピューター室

出席者　　：南小学校教職員、指導主事

（1）　参観者より　　○：成果　●：課題　★：改善策

（2）　ア．キャリア教育の視点

○分からなかったり、間違ったりしても投げやりにならずに最後まで取り組んでいた。

○一人学びに何分必要か児童に見通しを持って活動できるよびかけがあり、問題解決にじっくり向き合えていた。

○ペア学びでは児童が順序立てて相手を意識して説明しようとしていた。

○練習問題では２つのパターンが準備されていて児童に自己決定させる場面があった。

●自分の考えを伝えようとはしているが分かるように伝えようという意識が弱い。

●学習していることが将来の生活にどのようにかかわってくるかの伝えることも大事。

★学習の進め方が分かっているので児童に司会をさせて自分たちで授業に取り組ませてもいいのではと思う。

イ．教科の目標

○学習の流れ(シラバス)、本時の授業で大切にしたいこと(ポイント)、が視覚化されていた。

○児童のノートを拡大提示装置に写したので効果的に説明ができた。

○学び合いの場面では、児童が計算の仕方を説明した後にどこを工夫したか切り返したことで児童の考えが深まった。

○授業の流れがよく分かる板書になっていた。

○練習問題はいろいろなタイプがあったことで細かな見取りができるとともに、児童はスモールステップで達成感が味わえた。

●話す人の顔を見て聞く、話す、書く、学習規律の徹底が必要。

●約分を先にすると計算が簡単になるという実感ができたかどうか。

●一人学びの前半は児童にまかせ、すぐに支援にいかない。

●発達段階に応じて評価をする。

●教科書を活用した授業を大切にする。

●計算の仕方は理解したが正確に計算できていない児童がいる。

★児童との個別面談をして一人一人何を目指しているのかを確認する。

ウ．その他

○教師が児童の実態を考えた学びの保障をしようと努力していた。

○教師の励ましや評価もありつつ、常に小出しでレベルアップに繋がる声掛けを示していた。

★中学校とも連携し中学校の教師や先輩からアドバイスをもらい児童の授業に臨む意識を育てていく。

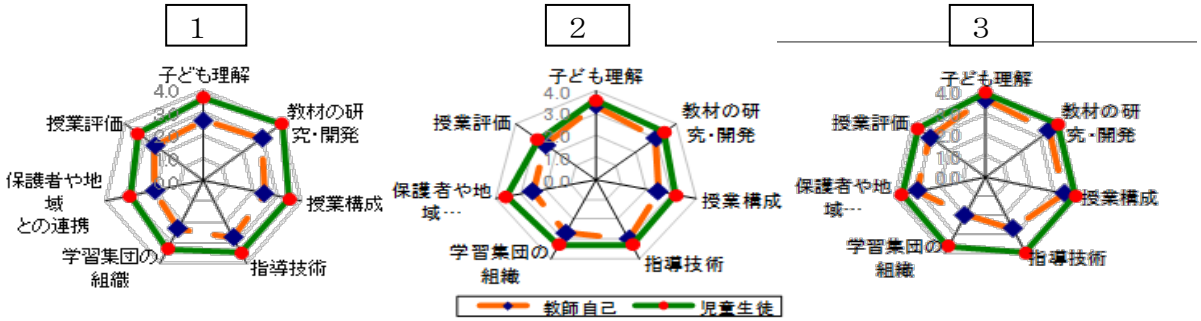
（2）授業者より

４年間複式学級だった３名が４月から単式学級となったのできめ細かな指導のもと、ていねいにノート作りをするとともに、自分たちで学び合いができるスタイルを目指してきた。課題としては、少人数の単学級での学習規律と学び合いの仕方を身につけさせることである。練習問題には前向きに取り組み全問正解していたので授業の内容はしっかり聞いていたことが分かった。まだ、自分の考えを伝えることだけが精一杯で相手に伝えることが十分育ってはいないので、今後の取組でのポイントとしていく。

（3）　指導主事より

本時でつけたい力を考えて指導できており、少人数で学びが深められていた。３人なのでペア学びは省略して一人学びの後３人で学び合いに入り、子ども達にゆだねていくことも視野に入れて取り組むことが大切である。ノートには、その時間の学びが残るようなノート指導をしていく必要がある。

ウ．授業評価についての取り組み



昨年度は５教科を中心に授業評価アンケートを行った。指導者と生徒の評価には開きはあるものの観点別の傾向は似ている。自己の課題を強化して展開を工夫し指導を行っているので、さらにアンケートを実施し効果を実証していきたい。また、子ども理解・教材研究の観点が継続して高い評価にあることから、少人数ならではの生徒への肯定的な評価や個の関心に応じた発問の工夫の大切さを、今後も共有しながら取り組んでいきたい。

（２）仲間づくり部会

仲間づくり部会では、『人間関係形成・社会形成能力』や『自己理解・自己管理能力』を育成するために、Ｑ－Ｕやアンケートの分析・活用、講師を招聘した校内研修会などを行なっている。

ア．Ｑ－Ｕ、「学校生活アンケート」の分析と活用

本年度も年間２回のＱ－Ｕ、「学校生活アンケート」を実施し、小中合同で分析・検討会を行い共通理解を図った。１回目は5月14日(木)～5月２２日(金)に実施し、分析・検討会を６月10日に校内研修で行った。第２回目は11月中旬に実施し、分析・検討会を12月初旬に計画している。

「学校生活アンケート」は、児童生徒が学級や友だちのことをどのように感じているかを知るためのもので、県教育委員会から配布されたアンケートである。これをＱ－Ｕと組み合わせることで、個人やクラスの状態がより分かりやすくなるのではないかと考え取り入れている。

Ｑ－Ｕ、及び「学校生活アンケート」は、各学級で実施し、小学校は学級担任、中学校は学年団で分析している。

第１回分析・検討会は各学年５分ほどの報告ではあったが、クラス写真を電子黒板に写し、名前を確認しながら話し合った。また、「学校生活アンケート」を取り入れたことで、Ｑ－Ｕと比較しながら、より深く児童生徒理解に迫ることができた。

昨年度の第２回検討会は、第１回分析結果からの変化を確認しながら、意識調査も含めた今までより細かい分析をし、それをもとに３学期からの取り組みを考えることができた。年度末にはＱ－Ｕの分析シートをまとめ、次年度につなげるための確認をおこなっている。

また、小中合同検討会では、スクールカウンセラーの曽我部先生からの助言を受けている。昨年度第１回目の検討会では、専門的な立場からの意見により全教職員が共通認識を持つことができた。第２回目の検討会では、気になる児童生徒に焦点をあてた話をお聞きすることができた。今後も、具体的な支援方法の研究を深め、小中学校全教職員で児童生徒と関わっていくことを再確認した。

イ．校内研修会

例年、夏季休業中に講師を招聘し、仲間づくりに関する研修を行っている。１学期に実施したＱ－Ｕと「学校生活アンケート」の結果を専門の立場からの分析し今後の指導へのアドバイスをいただくために、スクールカウンセラーの曽我部典子先生より、『難しいようで簡単かも？問題解決』と題して講話をいただいた。「性格の構造」「感情を適切に開放する方法」「対人関係の問題への対処法」についてのお話を聞くことができた。感情を静めるためには共感的に関わることが大切だが、教育の現場では社会に出ていくことを想定して、望ましい感じ方について教えていく必要があるということや、対人関係の問題が起こった時にはまず現状を合理的に判断し、相手との折り合いをつけながら、納得できる位置を探す過程が大切であるということを教えていただいた。講話を受けた後の質疑応答では、具体的な事例についてどのような対応が望ましいかということなども出され、教職員全員で考え合ことができた。

ウ．合同給食

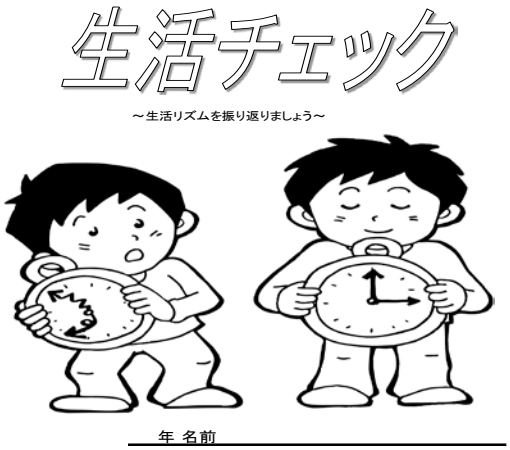
本校では、学校行事以外にも児童生徒が関わりあえる場をもっと増やすために、合同給食を行っている。昨年度は、７月１１日と、１月１６日の２回行った。小学校の低学年の教室では、憧れの存在で中学生が来てくれたことに喜ぶ児童や、中学生の食器に盛られた量と食べる速さを見て小学生が刺激を受け、普段は食べ終わるのが遅い児童が、いつもより速く食べられたという報告もあった。中学生にとっては、異年齢交流をすることで自分の成長を感じることができたようである。

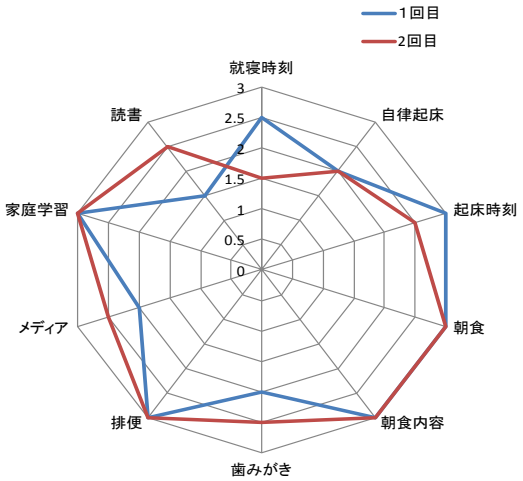
本年度は、小６児童が中１生徒と一緒に給食を食べることから始めた。６年生３名は、この春まで今の中学１年生３名と４年間複式学級として、１つの教室でともに学んできた。これまでお手本としてきた存在がいなくなったことは、６年生３名にとって大きく、５月末の修学旅行の事前学習にも戸惑いを感じているようだった。そこで、仲間づくり部会を中心として、中学１年生との合同給食を計画した。楽しく食べながら、修学旅行報告会での必要な情報の集め方、ユニバーサルスタジオジャパンでのおすすめポイントなど、中学１年生にアドバイスしてもらって、不安解消に繋げることができた。また中学１年生にとっても、初めての定期テストを控えた時期に、６年生達と一緒に過ごした時を振り返り、テスト前の緊張をほぐす、リラックスできる時間となった。全校での第１回合同給食は９月２９日に行った。

（3）体力づくり部会

ア．生活アンケート

基本的生活習慣を確立するために、生活点検を年間計画の５月、１１月に位置づけ、児童生徒の生活の振り返りを行った。保健だよりや職員会で問題提起することで、教職員全体で共通理解を図り、児童生徒の生活の様子を知り、課題点を明らかにすることができた。学期末の個人面談では、生活点検の各項目に対するコメントや、生活を図式化したレーダーチャートの入った個人カードを面談時の材料とし個人指導にもつなげていった。中学校では、生活点検結果より課題としてあげられた「朝食」について、「なぜ朝食を食べることが大切なのか」「どんな朝食をとればいいのか」を集会で指導することにより生活の改善を図る取り組みとした。





イ．小中合同体育

異学年が共に学ぶことで社会性を育てることを目指して、小中合同体育の授業を実施している。

今年度は小中学生が同じ種目で楽しめる「運動遊び」に加え、昨年に引き続き「防災学習」を取り入れて計画した。「運動遊び」では、すすんで運動に親しむ態度の育成を目的とし、「防災学習」では、自己の命を守る体力の向上と防災意識の向上を目指している。児童生徒が一緒に参加することで、下級生と上級生の関係性や協調性が年々深まってきている。

また、今年度は新たに、小中合同体育として南小中学校相撲大会を実施した。

★小中合同体育（運動遊び）６／４

小中学生縦割りチームに分かれて、中学生が主体となって行う「こおり鬼」、チーム対抗で「大根引き抜き合戦」を行った。

今回の目玉としては、南地区の災害や水難事故を想定し、「防災救助」としてロープによる命を守る救助方法を学習した。各チームで救助する側と、救助される側の役割を決めてロープの取り扱い方を学んだ。

小中合同体育（運動遊び）

日　　時　　平成２６年　６月４日（水）４校時

対象学年　　小学１年～中学３年（全校生徒）

学習活動	小学生	中学生	教職員
1、こおり鬼	全員バレーコート内で逃げる	中学３年生は鬼役 中１，２は逃げる	※補助・行動観察の協力をお願いします
2、大根引き抜き合戦 各班対抗（１分間）	縦割り班で対戦する	縦割り班で対戦する	
3、救命救助 ロープゲーム	救助する 縦割り班で行う	救助される側になる	
4、２０秒後におにごっこ （雨天や余裕があれば）	逃げる	２０秒数えて津波となって追いかける	※交通整理をお願いします

★小中合同体育（防災学習）６／２０

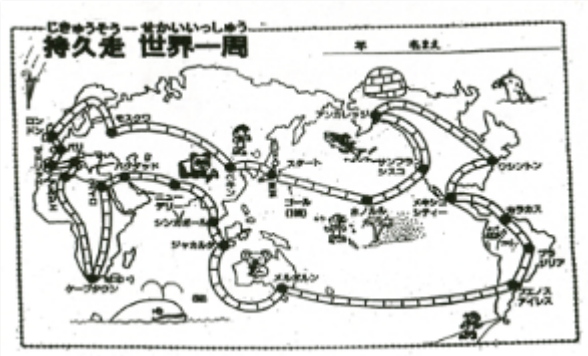
防災キャンプのカリキュラムの１つとして、水流体験や人工的に作った津波体験、背浮きの学習を行った。また、今年度は新たにバケツリレーを行い、知識と経験を身に付けることを目的に取り組んだ。バケツリレーの意義、役割分担、バケツの持ち方水の入れ方、列の並び方や並ぶ向きについて学んだ。

★小中合同体育（相撲大会）平成２６／１１／１８

中学校は、毎年恒例の体育授業（武道）の発表の場として大会を行ってきたが、生徒数の減少に伴い、個人戦や団体戦に影響するようになったため、小学生にも参加者を呼びかけた。今年度は、小中全員とはならなかったが、小学校３・４年生（男子）、小学校５・６年（男女）が参加してくれ、地域の方々に声援をいただきながら、盛大に行うことができた。小学生は、昼休みに中学生が呼びかけ、一緒になって試合の流れを教える場面や、練習試合などを行った。

ウ．早朝ジョギング（１０分間走）

毎年１２月に行われる持久走大会に向け、約２週間小中合同で早朝ジョギングに取り組んでいる。児童生徒ともに、持久走に対する意欲や意識を高めるために曲を流したり、マラソンカードを使用したりと工夫して取り組んでいる。特に、マラソンカードは「今日はここまで頑張れた。」という自己評価や「明日はここまで頑張りたい。」という目標にもつながっている。



（４）学校・家庭・地域・関係機関との連携（地域ぐるみの防災教育・キャリア教育）

①　開かれた学校づくり推進委員会

南小中学校では、PTA 役員や地域の団体の代表、有識者など２８名に児童生徒代表７名、教職員代表７名、計４２名の委員で推進委員会を構成し、「率直な意見交換を行い、児童生徒を主人公とした魅力ある学校づくりについてともに考え、相互に連携しながら地域ぐるみの教育を進めていく」ことを目的に年間２回程度の会を開催している。児童生徒の参加と地域の方の参加を両立させるため、２部制で行っている。前半１時間は全委員対象で、後半の１時間は児童生徒抜きで行っている。会長は PTA 会長が、副会長は校長と生徒会長が務めている。推進委員会で出された意見については、後日、報告文書を作成し保護者等に配布している。

①　第１回推進委員会・・・平成２７年６月２９日（月）、南小中学校多目的室

②　第２回推進委員会・・・平成２８年２月　９日（火））（予定）

※　小中学生の報告、学校評価の結果、学校支援推進員の報告、意見交換を実施。

② 地域の人材を講師に！

今年度も小学校生活科や総合学習や各教科を通して、防災教育を推進していく中で、児童生徒が地域に出かけて学習したり、地域の方が教室に入って活動したりする機会が多くあった。地域の方と交流し、あたたかな思いにふれることは、自己肯定感を高めるうえで重要であると考えている。また、学校から地域へと学びの場を広げていくことで、学校だけでは味わえない感性へ働きかけ、心をゆり動かす活動ができているように感じている。地域の大人たちの生の声を聞き、様々な体験や経験を通して、その生きざまにふれる機会を持つことは大きい。地域による学習支援は、そのほとんどにおいて双方から良好な評価を得ているが、学習の内容やねらいを理解したうえで、担任や担当者と十分なコミュニケーションをとりながら進めていくことが大切だと考えている。

今後も、地域の皆さんに色々な形で学校の教育活動に関わっていただくことで、児童生徒に多様な体験、経験の機会を提供し、自尊感情の育成やコミュニケーション能力の向上につなげていきたい。

ア．地域の皆さんによる主な学習支援(小学校)

学　年	教　科	支　援　の　内　容　等
小１年	生活科	花いっぱい運動、昔遊び
小２年	生活科	地域探検、花いっぱい運動、昔遊び、お芋おやつ作り
小３年	社会科	養殖漁業の学習、きゅうりハウス学習、
		昔のくらし学習、地域のマップ作り
小４年	総　合	地域の素敵を探す学習、米作り体験
小５・６年	総　合	大敷網体験、米粉クッキー、ポン菓子作り、米作り体験
全学年	国語科	書写(硬筆・習字) その他の教科の防災教育
特別活動	集　会	潮ばかり

イ．地域の皆さんによる主な学習支援(中学校)

学　年	教　科	支　援　の　内　容　等
中１年	総　合	聞き取り（郷土学習・防災教育）
中２年	家庭科	調理実習（郷土料理）（栄養素バランス）
	総　合	わくチャレ（職場体験）防災教育
中３年	家庭科	保育実習
	総　合	人権学習（施設での交流と作業体験）・防災教育
全学年	国語科	書写（習字）その他の教科の防災教育

ウ．　地域の皆さんによる主な学校支援

〇消防団によるプール掃除

〇八東小学校との交流支援、「道の駅」水槽管理の支援

〇あいさつ運動への参加、交通安全週間の立哨指導

〇避難訓練・防災学習の支援

「道の駅」水槽管理

消防団によるプール掃除

エ．学校行事等の案内（情報発信）

「運動会」「文化祭」などの学校行事には、中学校生徒会が案内文を作成し、公民館を通じて地域全戸に配布したり、小学生と教職員が地区ごとに分かれて全戸に声かけをして案内を行った。今年度の運動会には、防災種目を取り入れた競技を行い、地域の防災意識を向上させることができた。

（5）体験活動

①小学校

1 年生：町たんけんで、須賀神社に行きました。クモ発見！！

1・2年生：地域の方と「花いっぱい運動」で花の苗を植えました。

3・4年生：地域にある楠木鮮魚一で魚の話を聞きました。津波の話も聞いたよ。

3年生：鯛やカンパチを養殖している「こわり」を見に行きました。えさやりもしたよ。

5・6年生：地域の田んぼをお借りしての米づくり。かまも上手に使えています。

5年生：朝早く出航しての大敷網漁体験！！僕も漁師になりたいな。

全校：山の町梼原町の森林組合に行き、山の学習をしました。

5年生：夏には須崎市で交流、冬には岡山県の八束小に行き交流しました。

○ 児童作文より（山の学習をして）

木には、色々な役目があります。一つ目は人間の息から出てくる二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防ぎます。二つ目は、水をたくわえ、きれいにします。三つ目は土砂くずれを防ぎます。四つ目は疲れをいやし、遊び場になります。五つ目は生き物のすみかになります。六つ目は木材やきのこの生産の場になります。七つ目は空気をきれいにし、生活の環境を快適にします。

このように、森林には大事な役割があります。ですが、木が多ければいいというわけではありません。

森林のバランスをよく保つ方法は、まずは苗を植え、育てる前に下刈りをします。そして手入れをします。育てながら伐採（間伐）をします。

間伐はとても大切です。なぜいうと、適当な間かくで木を切ると、残した木は枝葉を広げ、のびのびと育つからです。木の成長にあわせて、間伐すれば、木の根本や地面まで日光がとどき、森林は豊かに育つそうです。

また、二酸化炭素を吸収してくれます。そして、育てながらまた間伐をして収穫するそうです。

そうやって、手間をかけ、地球の温暖化を防ぎ、水をたくわえ、地球や人の役に立ってるんだなと思いました。

私たちが作っているお米も森林のきれいな水で作っているのだと思います。森林はとても大切だと思いました。

②中学校

２年生職業体験７月８日～１０日

３年生「清流荘」訪問６月１０日

〇生徒作文より

私は、自分では食事をすることが困難な利用者の方のお手伝いをさせてもらいました。いろいろな利用者の方の状態によって食事が違っていたので、すごいなあと思いました。食べ物をすぐに飲み込めない方の食事にはとても苦労しました。介護士さんは本当にすごいなあと実感しました。また、すぐに口を閉じてしまう方に食べさせるのもとても大変でした。介護士さんに、利用者のかたのペースに合わせることを教えてもらって、うまく食べさせることができ、とても嬉しかったです。介護士さんに「上手やね。」と褒めていただいて、体験をして良かったなと思うことができました。

介護士の仕事は大変で、体力も使うし、精神力もいる仕事だということが分かりました。でも、利用者の皆さんの笑顔を見ていると、疲れなんてふっとびました。初めての体験で、すごく不安だった私の気持ちを安心させてくれました。やっぱり、お年寄りの存在って大切なんだと実感しました。

私は、普段、自分の住んでいる地域で、高齢者の方たちとの関わりはあまりなかったので、これからは様々な地域行事に参加して、もっともっと高齢者の方たちとの関わりを深めていきたいです。そして、自分が少しでも高齢者の皆さんの役に立てたらいいなと思います。

③小中合同体験活動

ァ．昨年度「防災キャンプ」から

「非常時において児童・生徒が自ら考え行動する力」「地域で起こる可能性がある災害や被災時に対応できる力」さらに、「学校等の避難場所で地域の人々と協力して生活していく力」、これらを子どもたちに身に付けさせるためには、様々な防災教育プログラムを体験させる必要があるとして、今年度は文科省指定による防災キャンプを実施した。

これまで、高学年児童や中学生は地域の人々の協力を得て、ビニール袋を使う炊飯方法やラップおにぎりは体験しているが、宿泊訓練や夜間の避難訓練などは初めての体験であった。共に過ごす時間が長くなり、活動も多くなると、お互いの気配りもより必要になり、協力して生活する大変さはたとえ１日でも実感できたようだ。また、早朝からの朝食の炊き出しや昼食の準備等、この活動にはたくさんの保護者や地域の方の協力があり、自分たちの活動を支えて下さる人々の存在にも気付くことができた。

この防災キャンプでは、高学年児童や中学生は防災クイズや避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）、ペットボトルを使った背浮き、津波体験、炊き出しなどを学習した。中学生はリーダーとして小学生の活動を支えることができており、それは、今後起こるであろう災害時に対応できる力となっていくと考えられる。低学年児童は地域の地震体験者から津波の恐ろしさや、その後の人々の協力による復興についてお聞きした。また、新聞紙を利用したスリッパ作りも体験した。スリッパ作りでは家族の分も作りながら「これなら、私たちにもできるね。」と気付く子どももおり、災害時に自分に何ができるかを考える機会にもなった。昨年度小学１年生が作成した防災カルタには災害時に注意するべき事柄が記入されていて、低学年児童にとってわかりやすい活動となった。

４年生以上の児童・生徒たちからは、振り返りの中で「避難するときは、他の人のことを考えて避難したい。」「避難所ではまわりの人の手助けをする。」「受付の仕事や困った人の対応ができる。」「高齢者のお手伝いができる。」「避難するときに声をかけながら逃げる。」「避難所で自分から進んで人の手助けをする。」といった意見が出された。

この活動を通して「地震が起きたら冷静に判断して行動する」「自分の命は自分で守る」「互いに協力し合う」ことが再確認でき学校・家庭・地域が連携して「共に生きる」ためにとるべき行動を認識できた防災キャンプとなった。

防災キャンプ（避難所運営ゲーム）

ドラム缶風呂体験

AED・人工呼吸体験

夜間の避難訓練

炊き出し・おにぎり豚汁づくり

イ．その他の体験活動から

防災種目を入れた運動会

平成２６年度 夏井いつきさん句会ライブ

本年度の教育講演会は「キャリア教育コンサート」として、高知市在住の「藤田恵実」さんをお招きした。藤田さんの音楽との出会いや音楽大学を卒業してから現在に至るまでのお話の中で、人生には色々な苦労に出くわすけれど、「愛の力」で、その苦難を乗り越えてきたこと、目標を持ち努力を続けることの大切さについて話していただいた。

平成２７年５月２４日（日）「キャリア教育コンサート」

平成２７年１０月３日（土）ふれあいコンサート「ナトゥール」さんのピアノ２台のコンサート

コンサートの後は全校生徒と保護者、地域の方とともに「クリーンカンペーン」として地域の缶拾いをした。

２．成果

平成２０年の中央教育審議会では、「国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、そのよさを継承・発展させるための教育を充実することが必要である。世界に貢献するものとして自らの国や郷土の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を身に付けてこそ、グローバル化社会の中で、自分とは異なる文化や歴史に敬意を払い、これらに立脚する人々と共存することができる。」と答申され、平成２３年には、「キャリア教育」とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と示された。

そこで、上記のような教育を行うために、本校では、児童生徒が生活する南小中学校校区の地域の自然や、社会、経済、歴史、文化などについて理解する防災教育・キャリア教育を推進することとした。

まず、自らの地域を深く理解することによって、地域について愛着が生まれるだけでなく、地域に対する誇りなどを育成することにつながり、地域についての深い理解は、異文化理解の基盤となるため、南小中学校校区の地域教材を日本語と英語で記録として残すことができた。

また、地域の身近な自然や地域教材を利用し、フィールドワークで探究的な学習を展開することで、地域の自然や文化についての研究成果を児童・生徒と蓄積し、それらを学校に展示できた。平成２５年度には高知県防災教育実践校として研究指定を受け、平成２６年度は文部科学省の「防災キャンプ推進事業の指定研究」により、キャリア教育と防災教育を柱に研究を進め、学校組織で「生きる力」の育成を図ることができた。

そして、教職員と児童・生徒は、地域の自然、歴史・文化を深く学ぶために、地域の高齢者から直接学び、積極的に外部講師を招聘し授業改善を図った。

学校が、児童・生徒の主体的な学習の場となり、地域の文化づくりや文化発信の場となり、児童・生徒が地域で課題や問題を見つけ、解決する中で、地域から学び、自ら活動の発信や交流を通じて学ぶ楽しさを体験することができてきた。

なお、全国学力学習状況調査の全国平均を１００として、小学校の平成１９年度と平成２６年度の比較では、小学国語A（８０）→（１１４）、小学国語B（７４）→（１０８）、小学算数A（９４）→（９８）、小学算数B（８４）→（１１２）と国語・算数とも上昇傾向であった。

しかし、中学校の平成１９年度と平成２７年度の比較では、中学国語A（９０）→（１００）と上昇したが、中学国語B、数学A・Bについては、課題が残された。

３．課題とその改善策

今後も、各教科の通常の授業において防災教育及びキャリア教育の視点を持ち、学習指導要領を熟読し授業改善を図ることで、「生きる力」を育成することを継続して実施する。

また、児童生徒が、直接体験を通して自然の美しさや不思議さに感動し、自然や文化に対する愛着や畏敬の念を身に付けるための地域学習をすることで、郷土愛などの豊かな人間性を育むだけでなく、地域の自然や文化を学び、学校から情報を発信し、地域づくりに貢献することができるような総合的な防災教育及びキャリア教育を今後も推進する。

そして、本校の研究の成果と課題をもとに、児童・生徒の成長や変容に関する評価及び学校教育活動を通してのキャリア教育全体の評価の充実を図ることが今後も必要であり、そのためには、本校の学校・家庭・地域・関係機関との連携を図り、学校教育活動の充実・発展を継続していく。

最後に、小中学校９カ年間で児童生徒の将来の夢や希望の実現のために、学校が組織として機能し、基礎学力の定着と学力の向上を図ることで学力進路保障を行い、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育を推進していく。